

1 1. 胃がん患者に対する腹腔鏡下手術の実施率

算式

【分子】

分母対象例のうち、当該入院期間中に「K655-22腹腔鏡下胃切除術 悪性腫瘍手術」、「K655-52腹腔鏡下噴門側胃切除術 悪性腫瘍切除術」又は「K657-22腹腔鏡下胃全摘術 悪性腫瘍手術」を施行した患者数

【分母】

測定期間内の退院患者のうち「胃がん」を主病名として入院し、「K6552胃切除術 悪性腫瘍手術」、「K655-22腹腔鏡下胃切除術 悪性腫瘍手術」、「K655-42噴門側胃切除術 悪性腫瘍切除術」、「K655-52腹腔鏡下噴門側胃切除術 悪性腫瘍切除術」、「K6572胃全摘術 悪性腫瘍手術」又は「K657-22腹腔鏡下胃全摘術 悪性腫瘍手術」を施行した退院患者数

定義

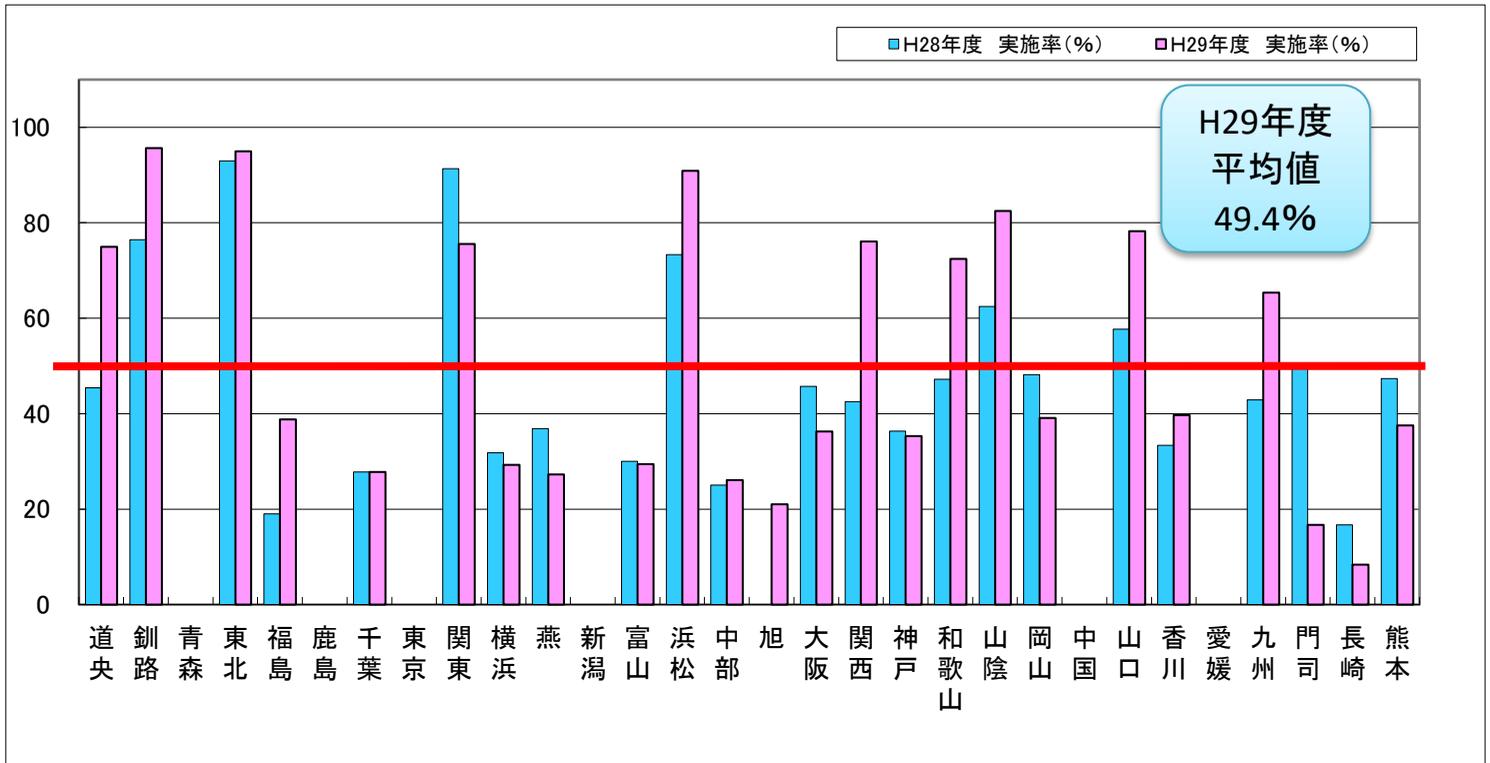
「胃がん」を主病名として入院し、悪性腫瘍手術を実施した患者のうち腹腔鏡下での手術実施割合

指標の解説

DPCデータより抽出

腹腔鏡下手術の有用性としては、開腹手術と比較し、入院期間の短縮、腸管運動の早期回復、術後の疼痛軽減等が挙げられており、当該手術の実施率により患者の負担軽減、社会復帰への貢献度を評価する。

1.1. 胃がん患者に対する腹腔鏡下手術の実施率



No	施設名	H28年度			H29年度		
		分母	分子	実施率 (%)	分母	分子	実施率 (%)
1	道央	11	5	45.5	12	9	75.0
2	釧路	34	26	76.5	23	22	95.7
3	青森	15	0	0.0	17	0	0.0
4	東北	57	53	93.0	40	38	95.0
5	福島	79	15	19.0	67	26	38.8
6	鹿島	0	0	0.0	2	0	0.0
7	千葉	54	15	27.8	54	15	27.8
8	東京	18	0	0.0	12	0	0.0
9	関東	46	42	91.3	45	34	75.6
10	横浜	44	14	31.8	41	12	29.3
11	燕	19	7	36.8	22	6	27.3
12	新潟	3	0	0.0	0	0	0.0
13	富山	10	3	30.0	17	5	29.4
14	浜松	15	11	73.3	11	10	90.9
15	中部	28	7	25.0	23	6	26.1
16	旭	15	0	0.0	19	4	21.1
17	大阪	70	32	45.7	91	33	36.3
18	関西	87	37	42.5	92	70	76.1
19	神戸	22	8	36.4	17	6	35.3
20	和歌山	36	17	47.2	29	21	72.4
21	山陰	48	30	62.5	40	33	82.5
22	岡山	27	13	48.1	23	9	39.1
23	中国	25	0	0.0	16	0	0.0
24	山口	26	15	57.7	23	18	78.3
25	香川	63	21	33.3	73	29	39.7
26	愛媛	3	0	0.0	3	0	0.0
27	九州	35	15	42.9	26	17	65.4
28	門司	6	3	50.0	6	1	16.7
29	長崎	12	2	16.7	12	1	8.3
30	熊本	19	9	47.4	16	6	37.5
合計		927	400	43.1	872	431	49.4
平均	500床以上	55	31	54.9	55	32	56.4
	400床以上	32	12	33.3	28	12	39.7
	300床以上	31	12	38.1	28	13	45.7
	300床未満	8	2	18.9	9	3	20.0